

保育者の力量形成に及ぼすマイクロティーチングの有効性 —養成校での授業実践における—考察—

金子 智栄子*・金子 功一**・金子 智昭***・金子 進一郎****

幼稚園教諭ならびに小学校教諭の養成において、「教育心理学Ⅱ」の授業で『学習・教授』『測定・評価』の領域として、アクティブラーニングの視点からマイクロティーチング(MT)を行い、保育者の力量との関連を検討した。MTは保育についての態度や技術だけでなく、協働的關係、視野の拡大と深化、学習意欲の向上という力量の形成をも促すことが示唆された。特に、力量⑤「専門的知識と技術」を獲得させる土台となっていることが示唆された。さらに、小学校教諭を志望する学生の方が、力量②「受容的態度」、⑩「反省による保育の模索」、⑰「小学校との連携」を獲得していたことから、幼児対象のMTと共に、教授内容の異なる児童対象のMTを実施することの有益性が示された。

修正指導案の分析では、幼児群は、強化・モデリング・リハーサル・思考や理解の促進・状況把握など学習や教授テクニック、評価場面・ゲームの成立状況・全体把握・ルールの把握など評価や測定に関するテクニック、興味や関心を持続させるテクニックなどが獲得されていた。小児群では、科目の内容と特性、全体把握、学習者の行動の予測、自分の意見の明確性、授業目的の確認の学びが認められた。

Key Words：保育者養成，力量形成，マイクロティーチング，授業実践

1. はじめに

金子(2013)は多様化する保育ニーズに対応するために、力量研究を精査して現代的視点から6分類20力量を構成した。態度(①保育への熱意と情熱 ②受容的態度 ③毅然とした態度 ④人権に対する理解と態度)、技能(⑤専門的知識と技術 ⑥計画と環境構成 ⑦遊びと生活への援助 ⑧集団把握とその指導 ⑨得意分野の形成)、技能向上(⑩反省による保育の模索 ⑪自己研鑽 ⑫要配慮児への対応)、協働的關係(⑬保育者集

団の質的向上 ⑭園運営での役割と見通し)、連携(⑮保護者との連携 ⑯地域との連携 ⑰小学校との連携)、視野の拡大と深化(⑱今日的な保育の課題への関心 ⑲他の学問領域への関心 ⑳研究への理解と深化)である。「保育者としての基礎的力量(①～⑨)」は主に養成段階で獲得され、「保育者の専門性を発展させていく力量(⑩～⑳)」は現職研修によって獲得されたと考えた。

筆者は、長年、養成校にて保育技術の向上を目指してマイクロティーチング(MT)を行っている。MTとは詳細な指導案を作成し、少人数を短時間で指導する実習教育である。MTの有効性

* 人間学部児童発達学科

** 植草学園大学発達教育学部

*** 慶應義塾大学大学院社会学研究科

**** 神奈川県教育文化研究所

を分析することで態度や技能の力量①②③⑤⑥⑦⑧が形成されることがわかっている（金子，2013）。ただし，これは教授者の視点からの分析であり，実際の学生の内省を基に行った分析ではない。そこで本研究では，まず，MTで形成される力量について学生の認識を明らかにする。

また，金子・三浦・鈴木（1995）は，MTの有効性を測定する尺度（幼稚園教諭養成用MT有効性測定尺度：EMTKS）を作成しており，その5下位尺度（全般的効果，学習意欲，観察学習，フィードバック，難しさの認識）を用いて，MTの有効性と力量形成との関連を検討する。

本実践は，文京学院大学人間学部児童発達学科の授業科目「教育心理学Ⅱ」において，『教授・学習』『測定・評価』の分野に該当し，MTは文部科学省（2016）の推奨するアクティブラーニングとして活用された。「教育心理学Ⅱ」は幼稚園教諭免許ならびに小学校教諭免許を取得するための選択科目であり，本学科は幼稚園教諭免許を基礎免許として，小学校教諭の免許が取得できるシステムになっている。したがって，受講者全員が幼稚園教諭の免許状を取得する予定である。しかし，受講生の中には，数人ではあるが小学校免許取得を第一志望にする学生もあり，学生の意欲や関心を高めて教育効果を向上させるためには，小学生対象のMTを実践する必要がある。そこで，児童対象と幼児対象とでは，力量形成やMTの有効性に相違が生じるのかを検討する。また，教師役学生と子ども役学生（観察者）の相違，実習経験が異なる学年差も合わせて検討する。

さらに，学生が作成した修正指導案の例を基に，指導実践後の変化について考察する。

2. 方法

1) 対象：本学学生44名（1年次35名，3年次9名）

3年次学生は2年次に幼稚園教育実習（1週間），3年次に保育所実習（2週間）の観察参加実習を行い，3年次に施設実習（2週間）を行っている。

4年次には幼稚園あるいは小学校の3週間の実地指導を含む実習を行う予定であり，全員が幼稚園教諭免許の取得を希望している。幼児対象が5班

（幼児群），児童対象が1班（小学校教諭免許取得志望：小免群）の計6班を編成し，1つの班が約7人で構成された。

2) 訓練期間：2014年10月中旬から12月中旬

「教育心理学Ⅱ」（後期，選択，配当年次1年）の『教授・学習』『測定・評価』の内容としてMTを計8コマ（1コマ90分）実施した。MTはアクティブラーニングとして行い，MT終了後は体験を，条件付けやモデリングなどの学習理論，認識を考慮した教示手順などの教授法，観察法による測定やその記録を基にした評価などの観点から，捉え直した。

3) 訓練内容：

①科目担当教諭である筆者がMTについて説明をし，指導案作成の留意点を講義する。

学生は各自が題材を提案し，その中から1つを選択して指導案を作成する。

②班で討議し，指導実践用の指導案を作成する。

③教材作成，指導手順や技術などの検討のため，班内で模擬保育・模擬授業を行う。

④1回目指導実践：班のペアをつくり，互いに指導を実践する。

⑤2回目指導実践：班を代えて，互いに指導を実践する。

⑥指導実践を反省し，修正指導案を作成する。

⑦修正指導案を全員に配布して報告することで体験を共有する。

⑧筆者の総評とアンケート実施。

教師役学生を実践当日に指名することで，誰もが指導者になる可能性を高め，意欲的にMT訓練に参加する姿勢を形成するようにした。なお，教師役学生は指導案の提案者ではない1年次学生に限定して，教授レベルを統制した。指導内容は幼児対象が『電車くんの一生』『ねずみくんのチョコキリレー』『じゃんけん列車など』『大きなかぶ』『クリスマスカード作り』で，児童対象が『ディベート』だった。

4) 調査内容：

1) 力量形成：20力量について，MTの経験で

身についたかを「3.あり, 2.どちらでもない, 1.なし」の3段階で評定させて, その理由を自由記述させた。自由記述については今回の分析から除外した。

- 2) 幼稚園教諭養成用MT有効性測定尺度(EMTKS):金子ら(1995):全般的効果(22項目),学習意欲(9項目),観察学習(6項目),フィードバック(8項目),難しさの認識(8項目)の5下位尺度で「4.あてはまる, 3.少しあてはまる, 2.あまりあてはまらない, 1.あてはまらない」の4段階で評定させた。

3. 結果と考察

1) 力量形成について

MTの実施における力量形成について, 平均値と標準偏差, 平均値の高い順位, 頻度と割合を表1に示す。

表1より平均値が2.50以上の力量を高い順に示すと, ⑩反省による保育の模索(技能向上): $M=3.00(SD=.00)$, ①保育への熱意と情熱(態度): $2.93(.26)$, ⑥計画と環境構成(技能): $2.93(.34)$, ②受容的態度(態度): $2.91(.29)$, ⑬保育集団の質的向上(協働的關係): $2.89(.39)$, ⑦遊びと生活への援助(技能): $2.73(.59)$, ⑤専門的知識と技術(技能): $2.64(.65)$ であった。

また, 力量形成「あり」を選択した者の割合が, 50%以上の力量を高い順に示すと, 力量「⑩反省による保育の模索:技能向上」(100.0%), 「⑥計画と環境構成:技能」(95.5%), 「①保育への熱意と情熱:態度」(93.2%), 「②受容的態度:態度」(90.9%), 「⑬保育集団の質的向上:協働關係」(90.9%), 「⑦遊びと生活への援助:技能」(79.5%), 「⑤専門的知識と技術:技能」(72.7%), 「⑧集団把握とその指導:技能」(63.6%)であり, ⑬保育集団の質的向上を除いて態度や技能に関する力量

表1 MTによる力量形成のM(SD)と順位, 人数と%

力量の名称	M(SD)	順位	3	2	1	全体
①保育への熱意と情熱(態度)	2.93(.26)	②	41(93.2%)	3(6.8%)	0(0.0%)	44(100.0%)
②受容的態度(態度)	2.91(.29)	④	40(90.9%)	4(9.1%)	0(0.0%)	44(100.0%)
③毅然とした態度(態度)	2.32(.74)	⑩	21(47.7%)	16(36.4%)	7(15.9%)	44(100.0%)
④人権に対する理解と態度(態度)	1.98(.70)	⑮	10(22.7%)	23(52.3%)	11(25%)	44(100.0%)
⑤専門的知識と技術(技能)	2.64(.65)	⑦	32(72.7%)	8(18.2%)	4(9.1%)	44(100.0%)
⑥計画と環境構成(技能)	2.93(.34)	②	42(95.5%)	1(2.3%)	1(2.3%)	44(100.0%)
⑦遊びと生活への援助(技能)	2.73(.59)	⑥	35(79.5%)	6(13.6%)	3(6.9%)	44(100.0%)
⑧集団把握とその指導(技能)	2.45(.79)	⑧	28(63.6%)	8(18.2%)	8(18.2%)	44(100.0%)
⑨得意分野の形成(技能)	2.07(.78)	⑬	14(31.8%)	17(38.6%)	11(25%)	44(100.0%)
⑩反省による保育の模索(技能向上)	3.00(.00)	①	44(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	44(100.0%)
⑪自己研鑽(技能向上)	2.23(.71)	⑫	17(38.6%)	20(45.5%)	7(15.9%)	44(100.0%)
⑫要配慮児への対応(技能向上)	1.82(.81)	⑯	11(25.0%)	14(31.8%)	19(43.2%)	44(100.0%)
⑬保育集団の質的向上(協働的關係)	2.89(.39)	⑤	40(90.9%)	3(6.8%)	1(2.3%)	44(100.0%)
⑭園運営での役割と見通し(協働的關係)	1.59(.62)	⑳	3(6.8%)	20(45.5%)	21(47.7%)	44(100.0%)
⑮保護者との連携(連携)	1.77(.86)	⑰	12(27.3%)	10(22.7%)	22(50%)	44(100.0%)
⑯地域との連携(連携)	1.64(.75)	⑰	7(15.9%)	14(31.8%)	23(52.3%)	44(100.0%)
⑰小学校との連携(連携)	1.72(.77)	⑱	8(18.2%)	15(34.1%)	20(46.5%)	44(100.0%)
⑱今日的な保育の課題への関与(視野の拡大と深化)	2.34(.65)	⑨	19(43.2%)	21(47.7%)	4(9.1%)	44(100.0%)
⑲他の学問領域への関心(視野の拡大と深化)	2.02(.76)	⑭	13(29.5%)	19(43.2%)	12(27.3%)	44(100.0%)
⑳研究への理解と深化(視野の拡大と深化)	2.29(.73)	⑪	20(45.5%)	17(38.6%)	7(15.9%)	44(100.0%)

注:3:あり, 2:どちらでもない, 1:なし, を示す

表 2 EMTKS の 5 下位尺度の M (SD)、及び 20 力量とのピアソンの相関係数

EMTKS	M (SD)	力								
		態度				技能				
		①保育者自覚と指導技術	②受容的態度	③毅然とした態度	④人権に対する理解と態度	⑤専門的知識と技術	⑥計画と環境構成	⑦遊びと生活への援助	⑧集団把握とその指導	⑨得意分野の形成
全般的効果	3.14 (.37)	.16	.40*	.22	.20	.44**	.21	.15	.20	.38*
学習意欲	3.49 (.42)	.32	.24	.20	.21	.60**	.28	.16	-.08	.42**
観察学習	3.44 (.41)	.19	.16	.13	.32	.56**	.11	.14	.10	.18
フィードバック	3.68 (.30)	.26	.44**	.16	.18	.66**	.39*	.18	.11	.38*
難しさの認識	3.39 (.21)	.20	.20	.29	.22	.57**	.01	.14	.08	.31

⑩反省による保育の模索（技能向上）は数値が収束されなかった。

**は 1%、*は 5% 水準で有意を示す。

だった。力量「①保育への熱意と情熱」「②受容的態度」「⑤専門的知識と技術」「⑥計画と環境構成」「⑦遊びと生活への援助」「⑧集団把握とその指導」の形成は予想通りであり、MT が保育技術の獲得に有効であることが確認された。また、現職研修によって培われると考えた力量「⑩反省による保育の模索」「⑬保育者集団の質的向上」も形成されており、特に力量「⑩反省による保育の模索」は 100% と高い。MT が技能向上だけでなく、協働的關係にも効果があると考えられた。

力量形成があったという者の割合が 50% 未満の力量を高い順位にあげると、「③毅然とした態度：態度」（47.7%）、「⑬今日的な保育の課題への関心：視野の拡大と深化」（43.2%）、「⑪自己研鑽：技能向上」（39.6%）、「⑨得意分野の形成：技能」（31.8%）、「⑲他の学問領域への関心：視野の拡大と深化」（29.5%）、「⑮保護者との連携：連携」（27.3%）、「⑫要配慮児への対応：技能向上」（25.0%）、「④人権に対する理解と態度：態度」（22.7%）、「⑯地域との連携：連携」（15.9%）、「⑰小学校との連携：連携」（18.2%）、「⑭園運営での役割と見通し：協働的關係」（6.8%）である。約 4 割の者が形成を認めている力量は、「③毅然とした態度：態度」「⑬今日的な保育の課題への関心」「⑪自己研鑽」であった。③は自信を伴う行動と考えられるため、学生が身につけにくい態度と考える。⑪⑬の形成があったことから MT により学習意欲が向上している側面が予想される。

MT は保育技術だけでなく、協働的關係、視野の拡大と深化、学習意欲の向上も促すことが示唆された。

2) 有効性と力量形成の程度

EMTKS の下位尺度、力量について 1 項目あたりの M と SD を算出した（表 2）。

表 2 より、平均値の差の検定を行ったところ、EMTKS では『フィードバック ($M=3.68$, $SD=.30$)』>『学習意欲 (3.49, .42)』『観察学習 (3.44, .41)』『難しさの認識 (3.39, .21)』>『全般的効果 (3.14, .37)』が、 $p<.001$ で有意差が得られた。フィードバック効果が最も高く、アクティブラーニングによる反省の有効性が示されたと考える。学年、教師役体験の有無、幼小の間で有意差はなかった。

力量では、教師役体験の有無に関しては力量「⑫研究への理解と深化」のみ $p<.05$ で有群 ($M=1.91$, $SD=.70$) の方が無群 ($M=2.52$, $SD=.70$) よりも低く、教師役を体験しなくても研究への探求心が高まると考えた。小兔群（力量②受容的態度 3.00, .00：力量⑩反省による保育の模索 3.00, .00：力量⑰小学校との連携 2.67, .51）の方が、幼免群（力量②受容的態度 $M=2.68$, $SD=.66$ ：力量⑩反省による保育の模索 2.76, .64：力量⑰小学校との連携 1.62, .76）よりも力量⑩反省による保育の模索が $p<.05$ 、力量②受容的態度⑰小学校との連携が

技能向上		協働的關係		連携			視野の拡大と深化		
⑪自己研鑽	⑫要配慮児への対応	⑬保育集団の質的向上	⑭園運営での役割と見通し	⑮保護者との連携	⑯地域との連携	⑰小学校との連携	⑱今日的な保育の課題への関与	⑲他の学問領域への関心	⑳研究への理解と深化
.19	.17	.22	.33*	.21	.15	.22	.21	-.02	.23
.22	.17	.09	.24	.25	.13	.16	.13	-.16	.27
.37*	.01	.01	.18	.01	.09	.07	.12	-.21	.23
.23	.19	.16	.28	.17	.07	.19	.03	-.17	.30
.14	.06	.20	-.03	.04	.07	-.13	.25	-.09	.20

$p < .001$ で高く、小免群で②受容的態度、⑩反省による保育の模索、⑰小学校との連携での力量が形成されていた。

3) MT の有効性と力量形成との関連

EMTKS の 5 下位尺度と 20 力量とのピアソンの相関係数を算出した (表 2)。

表 2 より、有意な正の相関があったのは、『全般的効果』が力量②受容的態度 ($r = .40$)、⑤専門的知識と技術 (.44)、⑨得意分野の形成 (.38)、⑭園運営での役割と見通し (.33)、『学習意欲』が力量⑤専門的知識と技術 (.60)、⑨得意分野の形成 (.42)、『観察学習』が力量⑤専門的知識と技術 (.56)、⑪自己研鑽 (.37)、『フィードバック』は力量②受容的態度 (.44)、⑤専門的知識と技術 (.66)、⑥計画と環境構成 (.39)、⑨得意分野の形成 (.38)、『難しさの認識』が力量⑤専門的知識と技術 (.57) だった。力量⑤専門的知識と技術は、EMTKS の 5 下位尺度全てと正の相関があった。

各力量を従属変数、EMTKS の 5 下位尺度を独立変数にして重回帰分析を行った。

表 3 には、決定係数と偏相関係数を示す。

決定係数は力量⑤専門的知識と技術においてのみ $R^2 = .56$ で $p < .001$ 水準で有意となり、偏相関係数は『観察学習 ($\beta = .33$)』『フィードバック (.40)』『難しさの認識 (.34)』が $p < .10$ 水準ではあるが、正の関連があった。

4) 修正指導案例を用いた MT の有効性の分析

修正前後の指導案例として、幼免群では『電車くんの一生』、小免群では『ディベート』を示した。修正前後の修正指導案を用いた MT の有効性の分析では、幼稚園教諭や小学校教諭の養成に関わる大学教員 3 名、及び小学校の元校長 1 名の 4 名全員で一致をとった。

(1) 幼児対象『電車くんの一生』について：記述欄別に修正内容→学びを以下に示す。

1. 「幼児の活動」の欄

修正①②：「歌の練習」→歌は活動の相図となることから重要度が高い。そこで練習を強化して各自が歌えるように工夫している

2. 「保育者の配慮」の欄

修正①：「みんなも歌いながらやってね」と声かけをする→子ども一人を例にしてモデリング効果を高め、さらにはリハーサルにて学習効果を高めている

修正②：問いかけをしながら理解を促す→質問に答えることで子どもたちが自然と思考できるようにしている、問いかけで確認することで理解を促している

修正③：ハイタッチしてから→相手を明確にさせる工夫、教師役学生が状況を把握できる時間をつくっている

修正④：ジャンケン先生がかけ声をかけるので、それまではジャンケンしないで待っていて

表 3 EMTKS の 5 下位尺度が各 20 力量に及ぼす影響性 (重回帰分析結果)

EMTKS	力								
	態度				技能				
	①保育者自覚 と指導技術	②受容的 態度	③毅然とし た態度	④人権に対する 理解と態度	⑤専門的知 識と技術	⑥計画と環 境構成	⑦遊びと生活 への援助	⑧集団把握と その指導	⑨得意分野 の形成
全般的効果	.17	.27	.07	.03	.13	.12	.24	.33	.20
学習意欲	.25	.16	.16	.02	.04	.01	.16	.77*	.26
観察学習	.04	.03	.16	.21	.33 †	.11	.03	.15	.26
フィードバック	.01	.44	.01	.08	.40 †	.54	.14	.59	.18
難しさの認識	.14	.05	.16	.08	.34 †	.30	.12	.04	.03
重決定係数	.06	.25	.08	.07	.56**	.08	.11	.24	.23

⑩反省による保育の模索(技能向上)は数値が収束されなかった。

**は 1%, *は 5%, †は 10% 水準で有意を示す。

ね→ねらいでもあるジャンケンが出来ているかを確認するために、評価しやすい状況をつくっている

修正⑤：相手がいない子がいないかを確認する→ゲームが成立しているか、ゲームに入れない子はいないかなど、全体把握を行うようにした

修正⑥⑧：子どもに実際にやってもらい、問いかけをしながら理解を促し、練習の時間を設ける→リハーサルしながら、質問に答えることで自ら考え、ルールを把握できるようにする

修正⑦：みんなで「ドン」とかけ声を言いながら→かけ声により、事態を理解し遊びに集中できるようにしている

修正⑨：好きな食べ物など、簡単なインタビューをする→優勝の喜びが増すようにし、楽しさを高めている

修正⑩：目印を回収する→次の活動に移る準備

修正⑪：少しスピードを上げる→今までの活動の繰り返しのため、スピードを上げて子どもたちが飽きないようにする

修正箇所での学びをまとめると、強化・モデリング・リハーサル・思考や理解の促進・状況把握などの学習や教授テクニック、評価場面・ゲームの成立状況・全体把握・ルールの把握など評価や測定に関するテクニック、優勝の喜びや楽しさ・飽きさせない(新奇性)など興味や関心を持続させるテクニック、次の活動に移る準備など活動連

携などが考察できる。

(2) 児童対象『ディベート』

1. 単元：国語から道徳へ変更→科目内容の適切さ
2. ねらい：道徳に関連するねらいに修正したことで、科目特性を理解
3. めあてにおいて、「全員が発表できるようにする」を追加して全体把握を促している
4. 「子どもの様子」を追加して、学習者の行動の予測を行うようにしている
これは幼児用の指導案の形式が影響しているのかもしれない
5. 備考：審判グループに手を挙げさせて、自分の意見を明確にさせる
授業のまとめをすることで、目的を伝えている

修正箇所をまとめると、科目の内容と特性、全体把握、学習者の行動の予測、自分の意見の明確性、授業目的の確認が考察される。

4. まとめと議論

幼稚園教諭ならびに小学校教諭の養成において、「教育心理学Ⅱ」の授業で『学習・教授』『測定・評価』の領域として、アクティブラーニングを考慮してMTを行った。

MTにより、力量「①保育への熱意と情熱」「②

技能向上		協働的關係		連携			視野の拡大と深化		
⑩自己研鑽	⑫要配慮児への対応	⑬保育集団の質的向上	⑭園運営での役割と見通し	⑮保護者との連携	⑯地域との連携	⑰小学校との連携	⑱今日的な保育の課題への関与	⑲他の学問領域への関心	⑳研究への理解と深化
.14	.34	.28	.43	.35	.51	.50	.03	.14	.07
.07	.07	.15	.12	.28	.10	.03	.14	.09	.01
.45	.32	.11	.15	.37	.33	.41	.04	.31	.13
.25	.15	.19	.45	.09	.12	.26	.24	.08	.18
.07	.04	.05	.46*	.11	.13	.41	.23	.17	.03
.22	.12	.10	.28	.16	.19	.29	.05	.11	.06

受容的態度」「⑤専門的知識と技術」「⑥計画と環境構成」「⑦遊びと生活への援助」「⑧集団把握とその指導」は予想通り形成されていた。MTが、保育についての態度や技術に関する力量を形成するのに、有効であることが確認された。また、現職研修によって培われると考えた力量「⑩反省による保育の模索」「⑬保育者集団の質的向上」も形成されており、特に力量⑩の形成は100%と高かった。MTが技能向上だけでなく、協働的關係にも効果があると考えられた。ただし予想に反して、力量「③毅然とした態度」は50%弱で低かった。③は自信を伴う行動と考えられるため、今後は、学生に明確な判断基準を獲得させることが重要となると考える。40%程度ではあるが「⑱今日的な保育の課題への関心」「⑩自己研鑽」が形成されており、学習意欲が向上していた。MTは保育技術だけでなく、協働的關係、視野の拡大と深化、学習意欲の向上の力量形成も促すことが示唆された。

相関分析では、MTの有効性は、力量⑤「専門的知識と技術（発達や保育内容に関する専門的知識・技術をもつ）」を獲得させる土台となることが示された。さらに、小学校教諭を志望する学生の方が、力量②「受容的態度」、⑩「反省による保育の模索」、⑰「小学校との連携」を獲得していたことから、幼児対象のMTと共に、教授内容の異なる児童対象のMTを実施することの有益性が示されたと考えられる。

修正指導案を用いた分析では、幼児群は、強化・モデリング・リハーサル・思考や理解の促進・状況把握など学習や教授テクニック、評価場面・ゲームの成立状況・全体把握・ルールの把握など評価や測定に関するテクニック、優勝の喜びや楽しさ・飽きさせない（新奇性）など興味や関心を持続させるテクニックなどが獲得されていた。小児群では、科目の内容と特性、全体把握、学習者の行動の予測、自分の意見の明確性、授業目的の確認の学びが確認された。MTの有効性と力量形成との関連は示されたが、本研究の対象者は少なく、今後は人数を増やして分析する必要があると考える。

引用文献

- 金子智栄子・三浦香苗・鈴木朱美（1995）. 幼稚園教諭養成課程におけるマイクロティーチングの研究—学生が認識したマイクロティーチングの有効性について—, 日本教科教育学会誌 18(2), 19-24.
- 金子智栄子(2013). 保育者の力量形成に関する実践的研究—有効な保育者養成と現職研修のあり方を求めて—, 風間書房.
- 文部科学省(2016). 学習指導要領改訂のポイント

(2016.9.27 受稿, 2016.11.7 受理)

(修正箇所記入)

教育心理学Ⅱ MT 指導案

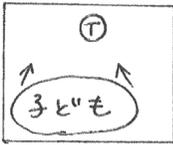
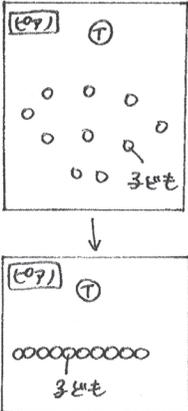
< 5 班 >

対象年齢：5歳児

テーマ：「電車くんの一生」(電車ゲーム)

ねらい：ジャンケンを理解する・音楽に合わせたゲームを楽しむ

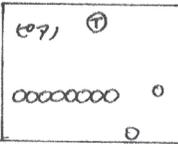
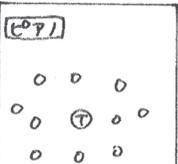
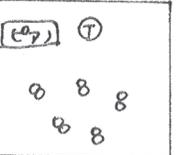
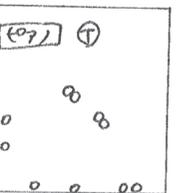
ルールを理解し、ゲームを楽しむ。

時間	環境構成	幼児の活動	保育者の配慮
0		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の周りに集まり、その場に座る。 ・保育者の話を聞く。 *電車を知っているか、乗ったことがあるか *電車はどんなものか 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに集まるよう声をかける。 「先生が見えるところに集まって座ってね」 ・導入の話をする。 「みんなは今日ここまで来て来た？先生は電車で来たんだよ。電車って長いよね。あれは1つ1つがガッチャンって繋がって長くなってるんだよ知ってた？今日はみんなが電車になりきって遊ぶゲームを考えてきました。」 ・ゲームの紹介をする。 「これから、電車くんの一生というゲームをしたいと思います。」
3		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の説明(1番)を聞く。 ・説明(見本)の手伝いをする子どもが1人前が出る。 [1番] *歌に合わせて1人ずつ電車になって走り、最後の「ガシャン」の部分で友だちと向き合ってジャンケンをする。 *勝ったら運転手(前)、負けたらお客さん(後ろ)になるのを続けていき、電車が1列になるまで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前に座っている子1人に手伝いをお願いして前に出てきてもらう。 「じゃあ○○ちゃん前に出てきて手伝ってくれる？」 ・見本を見せながら説明する。 「みんなには1番から3番までの歌に合わせて電車になりきってもらいます。まず1番は歌に合わせて1人ずつ電車になって走り、最後の「ガ

① 歌の練習をする。

① 歌の練習をする。
みんなも歌いながらしゃべると声かけする。

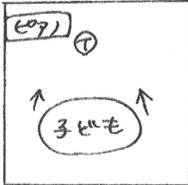
② 問いかけをしながら理解を促す。

時間	環境構成	幼児の活動	保育者の配慮	
7	<p>ピアノ ①</p>  <p>・後ろから順番に座っていく</p> <p>ピアノ</p>  <p>・保育者が近くの子ども同士でピアノを作る。</p> <p>ピアノ ①</p>  <p>↓</p> <p>ピアノ ①</p> 	<p>・電車くんの一生 1 番のルールを知る。</p> <p>・1 番のみ実際に行う。</p> <p>・全員一列になったらその場に座る。</p> <p>・保育者の説明(2番)を聞く。</p> <p>[2番]</p> <p>*「ドン」という音がしたら一番後ろの人から順番に 1 人ずつその場に座る(電車の切り離し)。</p> <p>*運転手は座っている人をよけて走り、全員が座るまで続ける。</p> <p>・2 番のルールを知る。</p> <p>② 練習を通して</p> <p>・立ち上がり、実際に 2 番を行う。</p>	<p>「シャン」の部分で友だちと向き合ってジャンケンをしてください。勝ったら運転手(前)、負けたらお客さん(後ろ)になるのを続けていき、電車が一列になるまでやります。」</p> <p>・子どもが理解出来たか確認する。「分かった人ー?」</p> <p>・1 番のみを行うことを伝える。「じゃあ、まず 1 番だけやってみよう。みんな立って広がってください。」</p> <p>・1 番のピアノを弾く。</p> <p>・「ガシャン」や「じゃんけんぽん」など必要なところで声かけを行う。</p> <p>・全員が一列になったら、その場に座るよう伝える。</p> <p>・2 番の説明をする。</p> <p>「2 番は先生が「一日中電車は働いたのでそれぞれお家に帰ります」と言ったら、みんなが一列になったまま出発して、歌の最後の「ドン」という部分で一番後ろの人から順番に 1 人ずつその場に座って電車が切り離されます。運転手は座っている人をよけて走り、全員が座るまで続けます。」</p> <p>・子どもが理解出来たか確認する。「分かった人ー?」</p> <p>・2 番を行うことを伝える。「じゃあ 2 番をやってみよう。立って前のお友だちの肩に手</p>	<p>③ 「ハイタッチをしてから」</p> <p>④ 「ジャンケン」は先生がかけ声をかけるのでそれまではジャンケンしないで待ってね</p> <p>⑤ 相手がいない子がいないか確認する。</p> <p>⑥ 子どもに実際にやってもらい、問いかけをしながら理解を促し、練習の時間を設ける</p> <p>⑦ 汗などで「ドン」とかけ声を言いながら</p>
12				

時間	環境構成	幼児の活動	保育者の配慮
		<ul style="list-style-type: none"> ・全員が座ったら、保育者の方を見る。 ・保育者の説明(3番)を聞く。 [3番] *先生が近くにいる人同士でチーム決める。 *そのチームで前後を決め、電車を作る。 *歌を歌いながら、チームとチームが「ガシャン」の部分でジャンケンをする。 *ジャンケンをして勝ったチームは、そのまま次の回も同じ子が先頭でジャンケンを行う。 *負けたチームは、先頭の子が自分のチームの一番後ろについて次の回を行う(先頭が変わる)。 *チームの全員が負けたら、その電車は廃線。全員バラバラになり、手を上げてくるくる回りながら壁の方に動いて壁際に座る。 *最後まで残ったチームが優勝。 ・保育者が決めた二人組でジャンケンをし、前後を決め 	<p>を置いてください。」</p> <p>「一日中電車は働いたのでそれぞれお家に帰ります。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2番のピアノを弾く。 ・“ドン”の部分で“座るよ”など必要なところで声かけを行う。 ・全員が座ったら、3番の説明をする。 <p>「これから先生が決めたお友だち同士で2人組のチームを作ってください。その2人組で前と後ろを決めて電車を作ります。後ろのお友だちはゼッケンを着てください。歌を歌いながら、チームとチームが「ガシャン」の部分でジャンケンをします。ジャンケンをして勝ったチームは、そのまま次の回も同じ子が先頭でジャンケンをします。負けたチームは、先頭の子が自分のチームの一番後ろについて次の回をやります。ゼッケンを着ているお友だちが負けたら、その電車は壊れてしまいます。全員バラバラになって、手を上げてくるくる回りながら壁の方に動いて壁際に座ってください。最後まで残ったチームが優勝です。」</p> <p>(見本を見せながら、ゆっくりと説明する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが理解出来ているかどうか確認する。

⑧
子どもに実際にやってもらい、問いかけをしながら理解を促し、練習の時間を設ける。

⑨
目印

時間	環境構成	幼児の活動	保育者の配慮
<p>20</p> <p>30</p>		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ろの子はゼッケンを付ける。 目印 ・立ち上がり、周りの子とぶつからないよう広がる。 ・実際に3番を行う。 ・優勝したチームの子どもは自分の名前を言い、その他の子は拍手をする。 ・保育者の周りに集まって座る。 ・保育者の話を聞く。 ・立ち上がり、その場に広がる。 ・電車くんの一生を1番から3番まで通して行う。 ・3番で優勝した子は自分の名前を言い、その他の子は拍手をする。 ・保育者の周りに集まって座る。 ・活動の感想を言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・3番を行うことを伝える。 「じゃあ3番をやってみよう。チームのお友だちとジャンケンして電車を作ってください。」 ・3番のピアノを弾く。 ・“ガシャン”の部分など必要なところは、「ジャンケンして」と声をかけながら行う。 ・優勝した子の名前を聞き、拍手するよう働きかける。 ・保育者の周りに集まるよう声をかける。「先生の近くに集まってください」 ・もう一回やることを伝える。 「みんなやり方は分かったかな？じゃあ今度は1番から3番まで続けてやりたいと思います。みんな立って広がってください。」 ・1番から3番まで同様に行う。 ・保育者の周りに集まるよう声をかける。「先生の近くに集まってください」 ・ゲームがどうだったか子どもたちに感想を聞く。 「電車ゲームはどうだった？じゃあ1人ずつ聞いてみたいと思います。」 「みんなが楽しんでくれてよかったです。これで電車くんの一生ゲームを終わります。」

⑨
好き食べ物
など簡単な
インタビュー
する

⑩
目印を回収
する

⑪
カシスシート
を上げる

小免群の指導案例

修正前

単元：国語

ねらい：相手の意見を聞いて考えを理解する

いろいろな立場になって物事を考えるとともに自分の考えを相手に伝える

		備考
導入	優先席の確認（マークを見せて） 役割や座る人を確認する	「このマークを見たことがありますか？」 「優先席に座る人はどんな人でしょうか。」 →お年寄り，妊婦さん，けが人等 「最近若い人が座っているのを見たことはありませんか。みんなは席を譲ってあげることにはできるよね？優先席って必要な。」
展開	チーム分け（必要，不要，審判） 今日の流れの確認 立案の内容を考える（3分） ・必要派立案（3分） ・不要派立案（1分） 質問を考える（1分） ・必要派質問（1.5分） ・不要派質問（1.5分） 答えを考える（3分） ・必要派答える ・不要派答える 最終立案を考える（2分） ・必要派最終立案（1分） ・不要派最終立案（1分） 審判判決（1人ずつ）（5分）	「今日はみなさんに優先席は必要か？ということについて必要派，不必要派に分かれて話し合ってもらいます。」 ○黒板使用 「チームは3つに分かれてもらいます。必要だと思うチーム，いらなと思うチーム，審判・司会チームです。ただし，いろいろな立場になって考えてもらいたいで，チームは先生が分けます。」 「審判グループはどちらに賛成しますか？」
まとめ	ディベートのよかった点などを褒める	「○○な意見，××な意見が出てよかったです。これからも優先席について考えてみましょう。」

修正後

単元：道徳

ねらい：相手の意見を聞いて考えを理解する

多様な考え方を身につけるとともに自分の考えを相手に伝える

周りを見て譲れる心を育てるきっかけにする

めあて：全員が発表できるようにする

	先生の行動	子供の様子	備考
導入	優先席の確認 （マークを見せて） 役割や座る人を確認する	「お年寄り，妊婦さん，けが人」	「このマークを見たことがありますか？」 「優先席に座る人はどんな人でしょうか。」

	先生の行動	子供の様子	備考
導入		うーん (悩む) お姉さん, サラリーマンが座ってたよー	「この席は何のためにあるのかな」 「困っている人が優先的に座るための席だよね, だけど, 健康な人が座っているの見たことない?」 「優先席って何のためにあるのかな」
展開	チーム分け (必要, 不要, 審判) 今日の流れの確認 立案の内容を考える (3分) ・必要派立案 (3分) ・不必要派立案 (1分) 質問を考える (1分) ・必要派質問 (1.5分) ・不要派質問 (1.5分) 答えを考える (3分) ・必要派答える ・不要派答える 最終立案を考える (2分) ・必要派最終立案 (1分) ・不要派最終立案 (1分) 審判判決 (1人ずつ) (5分)	「反対がいい」 「賛成がいい」 賛成: 優先席がること優先席にいる時は席をゆずる心がうまれる 反対: 優先席があるから一般席で席をゆずらなくなる 審判: 優先席があると席を譲るきっかけになるから必要, 日本人は優しいし譲り合えるからいい, どちらとも決められない.	「今日はみなさんに優先席は必要か? ということについて必要派, 不必要派に分かれてディベートをしてもらいます。」 <u>「ディベートというのは二つの立場になって意見を言い合ってもらうことです。」</u> ○黒板使用 「チームは3つに分かれてもらいます. 必要だと思うチーム, いらなと思うチーム, 審判・司会チームです. ただし, いろいろな立場になって考えてもらいたいのので, チームは先生が分けます。」 <u>「いろいろな立場になって考えてもらいたいのので, チームは先生が分けます。」</u> ○フローシート使用 「審判グループはどちらに賛成しますか?」「先にどちらのほうがより説得力があったか, 手を挙げてください」(自分の意見をしっかり持ってもらうため)
まとめ	ディベートのよかった点などを褒める. <u>出た意見を軽くおさらいして, わかりやすくまとめる</u>		「○○な意見, ××な意見が出て良かったです. (授業のまとめ)」 <u>「審判さんにはジャッジしてもらいましたが, この授業で大切なのは勝ったか負けたかではありません. 優先席について自分なりに考えられたかどうかです. 今日はみんなよくできていたと思います. この話し合いが, 優先席などについて考えるきっかけになれば良いです。」</u>